

### 1 はじめに

本校は児童数8名の小規模校であるため、体育科は全校で行っている。全員が力一杯活動できる運動は、発達段階や体力差、体格差などによって限られてしまう。運動会においてよく行われる団体種目も、以上のような理由から実施することが難しいものが多い。そこで本校では、個々の技能に応じて力一杯表現させながら、運動に対する自己肯定感を高めることができるものとして、全校児童による一輪車演技に取り組んでいる。

### 2 実践例

	<p><b>演技者入場</b></p> <p>一人ずつ名前を呼ばれると、自分ができる技を披露しながら入場する。能力に応じてバックやサークル、アイドリングを組み込むなど工夫する。1年生はまだ立ち乗りが難しいので、高学年が補助をしている。思いやりが育つ場面でもある。</p>
	<p><b>音楽に合わせての演技①</b></p> <p>音楽に合わせて2人組と3人組で演技を見せる。回転技をメインにして、直進とバック乗り、ジグザグ乗りで技をつなぐ構成である。個々での技の出来具合が演技②に影響するので、児童も慎重に演技をする場面でもある。</p>
	<p><b>得意な技の発表</b></p> <p>今回は、1年生は自力での直進乗りと3年生とペアで手をつないでの直進乗り、2年生はペアで手つなぎ回転、3年生は3人でフープを使った回転技、5・6年はペアでのボールキャッチやお手玉前進、手つなぎバック乗りを行った。</p>
	<p><b>音楽に合わせての演技②</b></p> <p>音楽に合わせて、この日見せた技を全て組み合わせで演技を行う。この日、児童が一番見せたかった技は、4人組と3人組の児童がそれぞれつながった状態で接近し、運動場中心で合体して風車のように回転する大技である。</p>
	<p><b>エンディング</b></p> <p>音楽に合わせて8人がダンスをする。音楽のタイミングを見計らって、一人ずつスカーフを振りながら場内を半周して退場する。最後は、運動場中央に戻り、全員で再度ダンスをして終了する。総演技時間は約25分、十分な運動量である。</p>

### 3 おわりに

学年が異なる8人の児童が、一輪車演技を完成させるという同じ目標に向かって、自己の最善を尽くして運動している姿は、地域の人々に感動と元気を与えている。一輪車演技を通して児童が互いに関わり合いを深めながら、それぞれの役割に応じた責任を果たしていく経験を重ねることは、児童の健全育成においても大変重要であると考えられる。